

木工研究会 木材講習会「木工家のための木材知識」 第一回「木材の流通」

開催日時：2018年9月17日（月・祝）13時～17時

会場：松本市 長野県工業技術総合センター 会議室

講師：櫻井雅大（櫻井銘木店） 服部雅章（服部商店）

参加者 34名 上松技専生10名ほど 報告者 渡邊久男

前半は 櫻井雅大氏のお話からです。

岐阜市の櫻井銘木店というと 以前インテリア誌「室内」掲載の広告で「銘木は高価ですが、それは長尺の建築材の話で、家具ならば短尺が活用できるから、良材が格安なのです。」というのが記憶にあって興味があり参加しました。

まず自己紹介があつて、スライドを見ながら社内の様子などを説明して頂きました。

扱っている木材の種類は、国産広葉樹が中心で、樺 栃 栗 楓 檜 たも 黒柿 屋久杉など、杢物約30種類。用途としては一枚板の天板用、椅子、指物、くり物などです。

入手先は、岐阜市内にある岐阜銘木協同組合と岐阜県各務原市で毎月立つ市の中の平野木材などで落札し購入。

丸太は2年間水につけてあく抜きをしてから製材をしているそうです。

寒いところの木は柔らかく、暖かいところの木は硬い。

良い木は人工乾燥も使い、一枚板は5～6年天然乾燥させ人工乾燥に入れているとのこと。

また建築用のカウンター天板などなどは、自分で仕上げ削りをしてから塗装をして出すこともあるそうです。

製材の仕方で参考になったのが、厚板から薄い板を取る方法です。

例えば、板厚50ミリの材を3分割する時、製材する木の裏側に長方形の木枠をボンドで取り付けて、それに爪をかけて製材する方法もあるそうです。

最後に購入の際には、特に初めての方は電話やメールでなく、ご来店くださいとのことでした。

後半は服部雅章氏のお話しです。

大阪府岸和田市の海岸沿いにある（株）服部商店ですが、事業の様子はDVDと資料を全員に配布していただきました。

現在製材しているメインの樹種は、北アメリカ産広葉樹で、白い樹種 赤い樹

種 それ以外の樹種の3種類。

その他、国産の広葉樹（ナラ、カバ、セン、タモ、カツラなど）針葉樹（木曾ヒノキ）。

すべての樹種に共通するのが、本来梅雨時に、広葉樹原木は製材しないのが望ましい。

赤味はまだですが、白太はカビが付着し、材が痛んでなくとも見栄えの悪い状態になるそうです。

それから針葉樹と広葉樹についての話で、戦後大量の針葉樹が植林されましたが、広葉樹は植林していないのに、針葉樹の間に勝手に生えてきています。

それを侵入木といいます。

現在これらを大切に育てていて太くなるのを待っています。

これから、あと30年待てば、用途も広がり価値も上がってくるでしょう。

現在残された原生林で有名なのは、北海道富良野にある東京大学演習林です。

良質なマカバやセンの産地です。

昔は北海道には、帯広地区 北見地区 札幌地区 旭川地区の市場があったが、現在は旭川地区の市場が存続しています。

日本の広葉樹は世界一の品質で、ひところは国内で製材された大量のナラ材が、ヨーロッパに輸出され、ヨーロッパの職人の作った家具が日本に輸入されていた、ということはよく知られた事実です。

しかし、現在の北海道では、良質のナラ材が枯渇しています。

商いの方法も変化しています。

昔の商いの方法は、お客様によって価格が違うというやり方でしたが、今は購入者が業者であろうがエンドユーザーであろうが、購入する条件が同じなら価格は同じという考え方が正しいというようになっています。

現在アメリカから中国へ途方もない数量の広葉樹が輸出されています。

もう日本が大量に購入するプライスリーダーではなくなりました。

木材を購入するにあたって重要なことは、信用です。

信用できる服部商店で是非購入してくださいとのことです。

人にとってありがたくない寒さも、木にとっては良質に育つ条件のようです。

つまり長野県の木は、良質なわけですが、どうも県内ではあまり流通していないようです。

もっと県産材を扱う木材店があったら良いと思います。



櫻井雅大氏



厚板から薄板を製材する方法



服部雅章氏